

P056 女性の就労と自覚的な健康・睡眠・疲労

○永谷照男¹、近藤康明²

¹名古屋市立大学・院・医・公衆衛生学、²国際セントラルクリニック

目的 女性の就労が健康に与える影響を評価するため、就労と自覚的な健康、睡眠、疲労状況との関連を検討する。

WWW.

対象者 健診受診者を対象とする「働くことと健康に関する調査研究」(<http://med.nagoya-cu.ac.jp/kouei.dir/moku%20sinkou.html> 参照)で2009.12.2までに同意が得られた女性1414名のうち、4条件(現病なし、妊娠なし、休職中ではない、用いた調査項目に欠損なし)をすべて満たした1072名を今回の対象とした。年齢幅22~58歳、平均年齢(SD)=38.8(6.0)歳。

次の調査項目は問診票を用いた面接による。

就労 無職、正規雇用、非正規雇用に3分類。n=171, 587, 314、平均年齢(SD)=39.7(5.1), 37.5(6.0), 40.9(5.7)歳。正規雇用、非正規雇用はそれぞれ一日労働時間と一週労働日数から一週労働時間を算出。平均労働時間(SD)=42.8(7.5), 28.7(12.1) h/w。

健康感 一項目の問診で評価。「自覚的健康状況、とても良い/良い/あまり良くない/良くない」、n=106, 780, 183, 3。

睡眠 二項目の問診で評価。A)「一日睡眠時間」、平均睡眠時間(SD)=6.2(1.0) h/d、B)「良く眠れるか、大変良い/ほぼ良い/良くない/大変悪い」、n=437, 481, 149, 5。

疲労感 一項目の問診で評価。「普段、疲れを感じるか、よくある/時々ある/あまりない/ほとんどない」、n=257, 718, 77, 20。

結果 健康感は無職に比し、正規・非正規雇用者で低い傾向であった。睡眠時間は無職に比し、正規・非正規雇用者でやや短かったが、睡眠の良し悪しは就労の有無と関連はなかった。疲労感は無職に比し、正規・非正規雇用者で強く、とくに正規雇用者で強い傾向があった。正規雇用者は週労働時間が長いほど健康感が低く、睡眠時間が短く、疲労感が強い傾向であったが、非正規雇用者ではこれらの関連はなかった。

考察 就労は低い健康感、短時間睡眠、さらに強い疲労感と関連し、とくに正規雇用者の長時間労働が健康阻害要因と考える。今後、対象者数を増やし、客観的健康指標(健診成績)、配偶者や子の有無、世帯人員、家事負担などを加えた解析を行う。

附 1) この研究は三菱財団の助成金と国際セントラルクリニックの受診者・職員の方々の協力で実施しています。2) 学会発表当日は対象者を増やして提示します。